

(別紙)

耐震計算の誤入力に係る再発防止対策の実施状況

平成22年4月
日本原燃株式会社

1. はじめに

平成19年8月21日、当社社長は、青森県知事に再処理施設における耐震計算の誤入力に係る報告を行い、平成19年8月31日、青森県知事から以下の4項目について要請を受けた。

- (1) 耐震計算誤入力の再発防止対策に係る監査の実施
- (2) 風通しのよい職場風土の醸成及びコンプライアンスの徹底
- (3) 耐震計算誤入力の件についての広聴広報活動の実施
- (4) 日本原子力技術協会による当社と協力会社との連携についての評価

これら4項目について、平成22年1月から平成22年3月までの実施状況を以下に報告する。

2. 実施状況

(1) 耐震計算誤入力の再発防止対策に係る監査の実施

計算機による設計解析を行う安全性評価業務が新たに発生した場合に、耐震計算誤入力の再発防止対策に係る監査を実施することとしているが、当該業務は発生していない。

(2) 風通しのよい職場風土の醸成及びコンプライアンスの徹底

風通しのよい職場風土の醸成及びコンプライアンスの徹底に関する諸活動をより実効性の高い取組みとするために設置した、社長を議長とする「企業倫理・職場風土向上委員会」を中心に、全社大の推進活動を展開した。

① 企業基盤活動重点項目の取組み（企業倫理・職場風土向上活動）

・行動基準ハンドブックの作成後の取組み

作成した「私たちの行動基準ハンドブック」を全社員へ配付し、企業倫理の向上活動を促した。また、3月4日に企業倫理・コンプライアンスの定着活動として、「私たちの行動基準等の制定について」と題し、講演会を開き、日頃どのように行動すべきかの道しるべとして活用するよう説明・周知を行った。

② 安全文化醸成活動に係るアンケート調査の実施

安全文化醸成活動の一環として、安全文化の定着度合いを測ること等を目的に、課長以下の社員及び関係会社社員等を対象として、9月に実施したアンケート結果を集約し、分析・評価を行った。その結果については今後の安全文化醸成活動に活かしていく。

③ 協力会社への個別訪問

協力会社との信頼関係を維持・向上させるために、年に2回の頻度で各協力会社の事務所へ足を運び、率直な意見を聴取している。

平成21年度の第2回目の個別訪問を1月20日から2月19日にかけて実施した。

現在は、協力会社よりあげられた現場作業場の改善の要望等を当社主管部署において、処置対応を検討・実施している。

(3) 耐震計算誤入力の件についての広聴広報活動の実施

耐震計算誤入力については、新聞広告や当社広報誌、地域会議などを通じてお知らせしている。(平成19年10月29日に報告済)

現在、様々な広聴活動を継続するとともに、頂いたご意見を踏まえて、当社の事業活動全般に関して、時機を捉えた、わかりやすい広報活動に取り組んでいる。

(4) 日本原子力技術協会による当社と協力会社との連携についての評価

平成19年12月27日に日本原子力技術協会より受領した「協力会社との連携に関する特定評価」における改善要望に対する当社の取組み状況の確認結果について、平成21年2月3日に日本原子力技術協会より報告を受けた。(平成21年4月16日に報告済)

今後、改善・取組み状況について然るべき時期に改めて確認を受けることとなっている次の項目については、以下のとおり逐次対応している。

- ①「協力会社に発注した業務の管理」
- ②「協力会社とのコミュニケーション改善」
- ③「言い出せる文化・職場風土の醸成」
- ④「コンプライアンス（企業倫理遵守）の取組み」

上記の①の項目については、「業務に精通した主管部署や品質管理部の監査への積極的な参加」や「工事を伴わない解析業務の一貫した管理のルール化」など、確実な設計管理を行うための仕組みを構築し、運用している。

上記の②、③、④の項目については、前述の「(2) 風通しのよい職場風土の醸成及びコンプライアンスの徹底」のとおり取り組んでいる。

以上